

第4回 丹波市生涯学習基本計画審議会（摘録）

開催日時	令和元年 11 月 25 日（月）午後 1 時 30 分開会～午後 4 時 00 分閉会
開催場所	氷上住民センター
出席者	<p><b>【委員】</b>            岡田龍樹委員長、萬浪佳隆副委員長、荒木伸雄委員、山内佳子委員、大西誠委員、廣瀬渡委員、酒井礼子委員、松本佳則委員、細見典子委員</p> <p><b>【丹波市】</b>            副市長</p> <p><b>【丹波市教育委員会】</b>            教育部長、教育部次長、教育総務課長</p> <p><b>【事務局】</b>            まちづくり部長、まちづくり指導員、市民活動課</p>
欠席者	<b>【委員】</b> 足立雅人委員 角悟委員、酒井芳朗委員、松井宣子委員
傍聴者	なし
次 第	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 会議の公開・非公開について 4. 報告事項 (1) 第3回審議会報告について 5. 協議事項 (1) 丹波市生涯基本計画後期計画の素案について 6. パブリックコメント（意見募集）の実施について 7. 策定までのスケジュール 8. 閉会
資 料	<p><b>【資料1】</b> 第3回審議会摘録</p> <p><b>【資料2】</b> 本日の会議の進め方について</p> <p><b>【資料3】</b> 施策の体系図（骨子案）</p> <p><b>【資料4】</b> めざす市民像・めざすまちの姿</p> <p><b>【資料5】</b> 丹波市生涯学習基本計画後期計画（素案）</p>

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員長	<p><b>1. 開 会</b> ○開会あいさつ</p> <p><b>2. 委員長あいさつ</b>          こんにちは。本日は、第4回ということで大詰めになってきました。本日は、素案を基に議論いただき、それを整理したものをパブリックコメントに諮るということとなります。市民の皆さんに知っていただく最後の意見調整になりますので、いろんな角度から気づいた点を発言いただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>本日は、副市長に出席していただいております。一言挨拶をお願いします。</p>
副市長	<p>皆さんこんにちは。各委員におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。第3回を10月4日に開催させていただいて、委員長からお話があったように素案を本日議論いただき、大きな修正がなければ、今回が最終になるかと思っています。この間、大変ありがとうございました。前回10月に開催して以降、大きな動きとしては10月22日に「市民活動支援センター」と「男女共同参画センター」が一体となりました、『市民プラザ』をゆめタウンの中にオープンさせていただきました。この『市民プラザ』、市民活動支援センター、男女共同参画センターどちらにつきましても、学んだ成果が活動に現れ、活動の中から疑問が出てきて学びに戻り、実践に戻っていくと言う循環型活動、学びと一体になった活動です。是非ともこの『市民プラザ』をご利用いただければと思います。</p> <p>そして、この基本計画ですが、前回も申しましたように「人口減少化の中での学び」というところに特に注目して作っているところです。最終いろいろと議論していただいて良いものにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。今日は途中で退席させていただきますがよろしくお願いします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
委員長	<p><b>3. 会議の公開・非公開の決定について</b>          会議の公開、非公開について確認します。</p> <p>運営要綱第2条におきまして、会議の公開又は全部もしくは一部の非公開は委員長が会議に諮ってこれを定めるとなっている。本日の議事においては、特段個人情報特定されることはないと考えておりますので公開とします。</p>

<p>委員長</p>	<p><b>4. 報告事項</b></p> <p>第3回審議会報告について、事務局に説明を求めます。</p>
<p>事務局</p>	<p>(1) 第3回審議会報告について</p> <p>○資料1に基づき説明</p>
<p>委員長</p>	<p>前回報告について何かご質問、ご意見ありませんか？</p> <p>前は、まなび人を増やす、育てる、里をつくるというところで、いろいろなご意見をいただいております。それが今回の体系図に反映しております。それを、前回いただいた意見を基に、めざす市民像、めざすまちづくり、をまとめております。それでは、前回の議論に基づいて出来上がった骨子案について議論を進めたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p><b>5. 協議事項</b></p> <p>素案について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(1) 丹波市生涯学習基本計画後期計画の素案について</p> <p>○資料2、資料3、資料4、資料5に基づき説明</p>
<p>委員長</p>	<p>一通り計画を頭から終わりまで書き込んでいただきました。最終的な調整は、事務局でされると思いますが、本日は、構成、枠組みのところを協議いただきます。資料5で言うと16ページから18ページで、網掛けの部分が資料3として別途つけられています。前期計画を左側に、右側が皆さんから頂いた意見をもとに後期に向けて修正されたとの説明でした。</p> <p>まず、1つは骨子、体系図の修正について、事務局案に対してご意見をいただきたいです。前回までにいろいろとご意見いただいて、前期から少しずつ状況が変わってきている部分もありますので、計画として力点を置いているところの見出しをどのような形にしていくのか。ここに力を入れていきますというところが計画の見出しになっていくのですが、その文言が変わったり、増えたりしています。</p> <p>『基本目標1. まなび人を増やそう』では、学びに出会い関心を高めるための啓発から、実際に一歩踏み出していただくきっかけ作りに移行していった方がいいのではということです。「課題(1) 学びの関心を高める」では、学びの機会と団体についての2つの情報発信は、団体は機会を提供するところでもあり、情報発信というところにまとめられていく。</p> <p>「課題(2) 学びを見つける」では、②多様なニーズに応じた学びの機会の提供はこのままということです。</p> <p>次に、『基本目標2. まなび力を育てよう』です。</p> <p>「課題(1) 学びでつながる」は、そのまま引き継ぐ。</p> <p>「課題(2) 学びを生かす」では、学びの成果を活用する仕組みづくりを追加しています。元々は、学びの成果を評価する仕組みづくりとなっていた</p>

	<p>ものに加えて、活用する仕組みづくりを加えている。このあたり、事務局の意図を汲んでいただいて、まず学んだことが正当に評価される、評価できるようにする仕組みづくりとともに、成果を評価するということに、学びに一步踏み出すのと同じように、活用するために一步踏み出す仕組みがあるのではないかが加えられています。</p> <p>「課題（３）学びの力を高める」では、市民活動団体やNPOの支援が必要ということです。これは、３つ目の基本目標『まなび里をつくろう』で、まなび里の一つの完成形を想像して、団体やNPOを育てることがまなび里になっていくということでしたが、市民活動団体、NPOが市民のまなび里を育ててくれるところに転化し、受け身的になっているのではないか。市民活動団体が市民の学びの力を高めるといったところにこそ貢献していただけるのではないか、してほしいというところかなと思います。</p> <p>『基本目標３．まなび里をつくろう』では、学校との連携が入りましたので、学校・家庭・地域の連携・協働について施策検討が必要で、もう少し児童、青少年の学習活動を地域で行っていこうということが盛り込まれています。</p> <p>字面だけで追いかけては難しいですが、我々の審議会で出てきた意見からこの方向性、政策、施策を展開していく上での力点の置き場所をシフトしていけばどうだろうかとの変更案だと思います。何かお気づきの点やご意見はありませんか。</p> <p>委員の意見が後期計画の中にどれほど活かされているのかというところでは、16 ページからの後期計画の方向性の表示では分かりにくいので、基本計画の後半にある具体的施策の中で確認をしていました。意見として出た「将来まちの担い手となる子どもたちに対する知識と経験の還元」というのが、基本目標３（３）で「地域で子ども・若者を育てる環境づくり」というところが変わっている。③というのは具体的施策、これは30 ページの一番下の欄、地域で子ども・若者を育てるに移行しているのだと思います。丸で記載されていることの中に委員の意見は反映されているかと着眼すると、先ほど言った、将来まちの担い手となる…。というニュアンスが取組項目には現れていないのではないかと感じます。○子どもたちが地域行事に積極的に参加し、地域との関わりを深めることで、子どもたちのふるさと意識の醸成を図る活動を支援します。と、○地域課題解決に若者の意見を積極的に取り入れるなど、若者が地域の担い手となるような取り組みを推進します。これが委員意見の「将来まちの担い手となる子どもたちに対する知識と経験の還元」と少しニュアンス的に合わないということで、委員の意見が反映されているどうかと疑問を持ちます。他の場所でも点検は必要だと思います。まず一番下の事項について答弁をお願いします。</p> <p>委員が考える「将来まちの担い手となる子どもたちに対する知識と経験の還元」をもう少し補って、こちらのイメージをまず説明いただけますか？</p>
委員	
委員長	

委員	<p>知識と経験の還元という部分は、具体的でない。具体的であれば明示されるわけです。ところが「若者が地域の担い手となるような取り組みを推進します。」では具体的な感じではないので、具体的施策という項目の中で書き表す表現方法とすれば、「知識と経験の還元で一緒に行う事業や場の提案」、「一緒に活動を起こす仕組み」とか、そういったことが知識と経験の還元と言えるひとつ。担い手となるような取り組みがないとイメージが湧きにくいように感じる。</p>
委員長	<p>事務局に回答を求めると言うよりは、我々がどう考えるかという意見出しをさせていただいていいですか？</p> <p>人口減少している丹波市にあって、丹波で生まれて育っていく子どもたち。この子たちには大きな期待が寄せられる訳です。この子たちが将来の丹波を支え、担っていく人になってもらいたい。大人はそのことに対してどう関わっていくのか、アプローチしていくのか。子どもたちとどんな活動をしていけばいいのか？というところだと思いますが、この丹波の宝である子どもたちと我々がどのように関わっていく、この子たちをどのように育てていけばいいかというところでしょうね。</p> <p>何か具体的に、もっと子どもたちにこんなことをしてあげれば、子どもたちも一緒に考えているんなことができるように成長してくるのではないかな。</p> <p>事務局がまとめているところも地域と関わりを深めて、子どもたちに地域のことを知ってもらおうとか、子どもたちの意見も取り入れますとなっているから、地域の大人と子どもたちが交流しようという意図で表現されているが、もう少し具体的なイメージはどのような感じでしょうか。</p>
副委員長	<p>今の意見を考えますと、この場面では、取り組みを推進しますということなので、子どもたちに積極的に関わるということは新しい場面として、課題2に「学びのまちをつくる」の中で学校・家庭・地域の連携・協働とあります。このあたりに、今言われた地域の持っている経験、例えば祭りであるとか、文化を次の世代に担っていただくという意味で、その中で言われた知識や経験の還元を協働の中でやっていくという捉え方をして、そこに項目をひとつ、今、②学校・家庭・地域の連携とありますが、子どもの見守りとか、環境づくりを推進しますに、少しそのような言葉を追加すれば、今言われたことは明確になってくると思いますが、いかがでしょうか？</p> <p>29 ページの「②学校・家庭・地域の連携・協働」のところ今この分を少し入れていく。文言は、どうあるべきか検討しなければなりません。ひとつのアイデアとしてどうでしょうか。</p>
委員	<p>前回の審議会の中で、持続可能なまちであったり、社会のためにはこれから地域の中で自ら参画して意見が言える人たちの活躍も。そういう人たちがまちが創っていくという話題も出たと思いますが、学びからまちを活性</p>

<p>委員長</p>	<p>化するという意味では、自立して、持続可能なまちを創っていく人材をまちとしても創る必要があると思うので、大人たちは、自分たちの経験を還元すべきというのが、将来まちの担い手となる子どもたちに対する知識と経験の還元なのかなと捉えています。ですから、学びのまちをつくる関連でも知識と経験の還元は必要だと思いますし、まちを活性化するという意味合いでも知識と経験の還元は必要なのではないかと感じています。</p> <p>自分で説明しながら戸惑っているところがあります。人口減少時代に、丹波市の宝である子どもに丹波のまちを維持してもらうために、大人の知識を還元していくというのですが、それは子どもにとって迷惑な話で、「私たちは私たちのまちをつくるよ。」と。大人が紡いできたことは大切にしなければならぬし、大切さは分かってもらえるように共有していくのだけど、若い人たちが新しい感覚で新しい丹波を創っていくこともありえる訳で、我々大人が創ってきたこのまちを何とか守ってほしいと、子どもたちに知識と経験を還元していただくだけでは、子どもにとっては酷かなという気がする。例えば、小さい時に丹波のお祭りや自然、歴史を感じ、いいなと思って育った子が、高校や大学で丹波を離れ、帰ってきた時に「まだ丹波はこんな状態なのか」「もっと丹波を変えよう」と思う子たちが、大人たちに「もっとこうしよう」と言うのを受け入れていかなければ、丹波市は発展していかないのかなと思う。ただ大人が創ってきたものを引き継ぐだけではいけない。若い人の感覚で丹波が変わっていくこともありうる。変わらない部分もあり、変わっていく部分もあり。変わっていく部分は若い人たちに委託することは必要である。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、学校教員の方とお話する中で、これからの学校現場の課題の中に、子どもたちの将来に渡る仕事のあり方、働き方は大きく変わっていくのだろうという話があった。おそらく20年、30年経った時に、今ある仕事の何割かが無くなり、新たな仕事が生まれていく。子どもたちの人生は、今ある我々の生活している人生とは大きく違っているのだろうなという話です。また、新たな仕事が生まれるなかで、我々は何をつなげていくべきかという話をしました。もしかしたら、AIが世の中の仕事を担うことになった時に、子どもたちが大人になって仕事をしていかないといけない中で、今、我々の経験した知識や経験を子どもたちに伝えることで、生きる力と言うものは伸びていくのではないかと、それは、大人が伝えるべきものではないかという教員の話の話を聞きました。ですから、委員長が言われたニュアンスも分かるのですが、大人たちが自分たちの経験や知識を押し付けるのではなく、彼等が将来どんな世の中になっても自立できる大人になるために、我々が知識や経験を伝えたりすることは非常に重要なのかと、そういうニュアンスのお話なのかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>この会議でも1回目でお話しました「SDGs」持続可能な開発、何も新しく</p>

	<p>なくてもいい、丹波が持続していくためにどう変わっていくのかということですから、それには大人の支援もあり新しい IT だとかを混ぜながら、持続可能なまちの発展を目指していくことが共有されていく。</p> <p>どんなまちであればいいのかという時に「可能性の感じるまち」で丹波に住んでいるといろんなことができる、いろんな取組みができる、それを支援してくれる人がいるという「いきいきとしたまち」になってほしいという気がします。</p>
委員	<p>私も丹波に長い間生きていますが、そのなかでも地域の素晴らしさとか農業の問題・課題が起きていますが、それに直接携わっておられる方々とか地域に対する誇り、素晴らしさ、愛着とかそういったものは子どもに伝えていくべきだと思います。私でも大人の方々から教えていただいて、こんなに地域は良いところだと感じるのですが、丹波を離れ都会に出ていい企業に勤めという考え方に、何も無ければ子どもはその方向になるのではないかと。常々周りの大人が、経験や知識、素晴らしさを伝えていく必要性があるのではないかと。</p>
委員	<p>仕事がこれから先どうなるのか分からないという問題もあるわけですが、それに伴って先にどんな課題が起きてくるのか分からないという状態です。その時に、地域の課題を解決できる力を子どもたちに持ってほしいというのが、先ほどの委員長の話の流れにはあるのではないかと思います。だからといって過去のことは、一切清算してという訳ではないと思いますし、今の大人が整理して何を伝えていくか、伝えていなくてもいいものもあると思います。精査していかないといけない。子どもたちには力をもってほしいという気持ちがあります。</p> <p>それと、今、丹波市では比較的若い人が、丹波市っていいよね、いろんなことに挑戦できるよね、いろんなことがうまれるよね、だから丹波市は居心地がいいよね、という話を良く聞きます。これから先のことを考えるとそういう土壌をキープしていきたいし、そういう整備をしていかなければと思います。</p>
副委員長	<p>私は、持続可能なまちを創っていく時に一番留意しなければいけないことは、コミュニティが崩壊しつつあるという現状です。自治会に入らないとか、青年団が解散していく、婦人会がなくなっていく。コミュニティ能力が欠けていく世代が、これからの世代だと思う。今日の NHK のニュースでも、全てがその例外で他人や親から料理を教わらなくてもレシピがアプリですぐに出てくる、そういったことで人との関わりがなくなっていく、その中で持続可能なまちを創っていくには、人と関わりがなくてもまちだけが発展する、都市化していく、文化的に進んでいくとか、それだけが本当の生き方なんだろうかと思います。やっぱり人と人が繋がって初めて丹波市の魅力が出てくるのではないかと考えるので、少し違った観点からすると、コミュ</p>

<p>委員</p>	<p>ニティのあり方に大人の経験を入れていく必要があります。子どもたちが、現在ではスマホ世界で、バーチャルな世界に浸っていくことだけでいいのだろうかと思います。</p> <p>子どもたちの側と大人の側と両方から考えていきたいなと思います。子どもたちの側では、地域行事に積極的に参加し、地域との関わりを深めると書いてあります。子どもが地域コミュニティに参加して、自分が中心的のひとつのイベントを任せられるとか、自主的や積極性が発揮できるような地域社会であることが、子どもが地域を好きになるひとつだと思います。子どもの学習の中で、6年生が地域の現在の姿と未来の姿を思い描いて、どんなことが出来るか？という地域マップ図を作り、そこに兵庫県下の成功した事例を見ながらマップ図に落とし入れていき、現在の丹波市はどんな状態か、未来にどんなことがしたいか、最終的にはコミュニティで地域の自治会と話をして自分たちの思いを伝え合う事業が展開されています。最終的には未来にどんな姿に近づきたいか、イメージを作ってどんなことが出来るかを地域に働きかけるという方向に学校の指導計画はなっている。取り組みの浅さ深さがありますが、自分たちの地域を見直すことが目的である。子ども側にはそのようなことがありますので、コミュニティに積極的に参加できるような学校と地域の連携は大切になると思います。</p> <p>大人としては、私が就職した時にも丹波市には採用がなく、都会で就職し帰ってきた訳ですが、仕事が無ければ子どもは帰らないから、仕事出来る丹波市にしていく。また、起業出来るよう大人の力で考えないといけないと思います。どこの社会も同じですが、40代が若者に一番近い存在だから、ここが駄目だと言ってくれるのですが、言える存在がないから大事なことを教えてくれる年代がない。仕事がある社会においても教育する教育係がいる。若者だから何でも許されるのではなく、覚えないといけないこともある。最終的には人のつながりです。人のつながりが子どもを伸ばし子どもが地域に帰って行く。人のつながりは、小さなコミュニティで子どもを大切に育てていく、経験を積ませないといけないのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。みなさん言われているとおり、挑戦できるまちであり、それを支える大人がいるまちであり、しかも、つながりがあるまちだろうと思うのです。副委員長が言われたコミュニティ問題も重要で、以前もどこかでお話しましたが、いわゆる「ソーシャルキャピタル」ですね、信頼関係が、地域の人たちにあって、ネットワークでつながっていく、「お互いさま」という感覚を持っている。コミュニティの人間関係も、縛りあうような人間関係があると、実はうまくいかない。人間関係は、緩やかな関係がある方がいい。信頼関係というのも家族にはありますが、知らない人に対しても丹波に住んでいるのだから悪い人はいないと思っていることが、実は、重要で、それをつくるためにはお祭りで触れ合うとか、「あの人知ってるよ」とか、「あそこの息子さんがうちの子どもと同級生よ」という程度の知識で</p>

	<p>つながっていることは重要です。そんなコミュニティの良さを丹波市で守っていかねばならない。昔ながらの関係は、若者もしんどくなり出て行ってしまうこともあるから、地域づくりに子ども会を、何かしたいと思えば「まあやってみ」と言ってくれる大人がいる、指導もしてくれる、「それは少し間違っている」と助言もしてくれるようなまちであるといいですね。</p> <p>次のところにも議論は関わってきたかなと思うんですが、この体系図のところ、冒頭、委員が委員の意見が本当に反映できてますかというようなご指摘がありましたけれども、他にもお気づきのところがありましたらお願いします。</p>
委員	<p>まず、「まなび人を増やそう」で、「学びへの関心を高める」の、「学びに出会い、参加するきっかけづくり」ですが、私の感覚ですが、「参加する」というのは主体性が乏しくなると思うので、そこを「参画する」というような表現に変えるのが良いのかなと思います。次に、「まなび力を育てよう」の「学びを活かす」の2番目で、「学びの成果を活用する仕組みづくり」という新たな項目ですが、先ほど、知識と経験の還元の話にも関連してくる表現ですが、「活用する」という表現は、どちらかという自分本位な活動も含めているような活動があるかと思いますが、より利他的な、「活用する」を「還元する」仕組みづくりと表現するのもありかなと思います。「まなび力を育てよう」の3番、まなびの力を高めるの4番目、市民活動団体やNPOへの支援は、学びの力を育てるための支援が必要だと思っているのですが、まなびの人を増やすことや、まなびの里を作ろうということも、市民活動団体やNPOへの支援が必要になると思いました。市民プラザができて、私も市民プラザに足を運んだのですが、TAMBA 地域づくり大学のカリキュラムが非常に良いもので、中間支援組織だと認識しているのですが、まなび力を育てようという部分でよい取り組みになっていくだろうと感じている。この市民プラザだけに、必要なものが大きくなればなるほど、ほかの支援がなかなか難しくなるかと思っています。NPO や活動団体がそれぞれ役割を棲み分けていくべきではないか。それぞれ、人を育てる所、力を育てる所、学びを育てる所というのは、同じだけれども、多様な市民活動団体やコミュニティが活躍できるように、行政が支援していくべきではないかと感じました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。一つステーションができたから、そこが全部担うというものではないのでしょうか。そこもひとつであって、いろんなところでも支援がなされている。こういうことだから、あそこが一番得意だろうとか、この分はあっちに相談した方が良いとか、選択肢がたくさんある。後期計画の中でも、いくつか仕組みづくりというのが出てくるのですが、仕組みをつくるという時に、いろんな支え方が展開できるような仕組みを考えていく必要がある。</p>
委員	<p>その施設ができればそこに任せればよいという感覚がありますし、そ</p>

委員長	<p>れで自治会になんでも話がきているというのもあって、まなび力を育てよ うの3番の、「自治会が手一杯の状況であるため、サポートする組織や人材 が必要」、確かにその通りですが、手一杯という所が私の中では変えていた だきたいと思います。手一杯というのは自治会だけではなく、いろんな組織 でも手一杯であると思うので、自治会が中心になり地域課題を解決するに は、サポートをする組織や人材が必要であることに変えた方がいいのでは ないかと思います。確かに自治会が大変ということはよく分かるんですが、 自治会だけかという、各委員会いろんなところでご尽力されているとい うのも分かっていますので、この手一杯という言葉は自治会一人がやって るみたいで、そんなことはないと思いますので、意見を言わせていただきま した。</p> <p>他にどこか助け口ないかをお互いに言えることが良いと思います。でき ないことまで抱え込むとしんどくなりますから。</p> <p>福祉の世界で、「ナチュラルヘルパー」という言葉があって、専門家が支 援してくれるのは、非常に専門的に的確にされるんですけども、日常生活 で助けてもらえるのは、非常に個人的な人間関係やつながりで支援されたり 助けられたりしています。そういうのは、「ナチュラルヘルパー」という ことで、「ナチュラルヘルパー」をたくさん持っている人は、非常に生きや すいわけです。ちょっとしたときに頼れる人間関係があれば良いですね。 組織も同じで、いろんな所とつながって、得意な部分、逆に言うと、ここ のところ手伝ってもらえないかという組織間の連携がすぐできるとか、そう いった仕組みづくり、組織づくりが必要だと思います。</p> <p>まずは、行政が主体となって、支援の仕組みをつくるというのが非常に重要 なことで、それが核となって発展していく。別の特化した支援の仕組みをつ くる必要があるなというところが出てくるだろうから、まずは、今動き出し た仕組みが重要なかなと思います。この先に、これに基づいてどういう手を打 っていくのかというところの共通理解をして、硬直した仕組みを作るので はなくて、多様な学び、多様な支え方、多様な人間関係を目指していけばよ いかなと思います。</p> <p>その話の延長線に、丹波市のまちの姿、市民像にもつながってくるのです けれども、いろんなご意見もいただきましたが、生涯学習という切り口か ら、どんな市民像を描いていくのか、どんなまちを構想するのか。これまで の話の中で、大体イメージは共有されていると思うのですが、それを文字に していくという作業がありまして、それが難しいところですけども、市 の方でたたき台として出されている事務局案、もう何度か練り直していただ いて、また皆さんから意見をいただければと。コンパクトに的確に表現しよ うとすると難しい。素案としてあがっているものが、黄色の部分です。資料 5でいうと、20 ページの下にあります。人口減少時代においても、市民一 人ひとりが生き生きと活躍し、地域の活力を持ち続けられるために、めざす 市民像、めざすまちの姿を設定します。「めざす市民像」は、地域に関心を</p>
-----	---

	<p>もち、人と人とのつながりを大切にしながら、地域課題に対し、地域の担い手として自発的に取り組むひと。「めざすまちの姿」は、人口減少時代においても、地域が活力を維持し、さらに発展していけるよう市民一人ひとりが活躍できる力を育むために主体的に学ぶ、そんなまちにする。</p> <p>お気づきの点ありますか。</p>
副市長	<p>みなさんのご意見をお聞きしたいのですが、今回この中に盛り込めていないのですが、先ほど話にも出ていましたが、丹波市の将来の持続可能性という考えの時に、丹波市の特徴というのは、多くの方が大学に出るために一旦は丹波市を出る。これは、他のまちとは違うところ。4～5年後どうなるか。ある程度は帰って来るけれど、みんな帰ってくるわけではなくて、そのまま都市部で就職している。男性はある程度帰ってくるけど、女性が帰って来る率が非常に低いという人口動態という現実があって、その辺がこれからの丹波市の持続可能性を考えると、そこをどうしていくかということが課題である。丹波市を出ていく前に、学びという中で、ふるさと意識というところでもあるけれども、例えば、自己有用感を、小さい時から高校までに自分たちがまちの中で必要とされている、必要とされてきたという知識や実体験を、自分たちが生涯にわたって、丹波市に必要とされている意識を持って外に出ていく。具体的な丹波市の生涯学習に関する知識や経験ではなくて、必要とされている自己有用感みたいなものを持って出てくる、そして、まちを担っていくのも重要ですし、学びはもっと人間を大きくして、ふるさとで活躍しなくてもよい、世界中どこでも、ノーベル賞というような人は、アメリカへ行ったり他の国へ行って活躍する、そういう生き方もあるわけで、それを否定するものでもないですし、今でいえば関係人口という言葉もあって、必ずしもここに定住しなくても、丹波市の外に出て丹波市と関わり続けて、何らかの形で応援していける、そういう人間をたくさん作っていくためにも、丹波市にいる間にいろいろ学んでもらうということもあるでしょうし。というような姿は、今のところここには書けていなくて、戻って来いというのか、戻らなくてもいいけど、丹波市のことを将来考えて外で応援していくというのが十分書き込めていないのですがどうですか。</p>
委員	<p>副市長さんの言われることは、すごく大事だと思います。子どもたちが、小さい時に地域の行事に参加して、必要とされている自己有用感を感じたら、また戻ってきたい気持ちが湧くと思います。そのことが、私もここを見ていたら、第3回の時の「未来ある子どもたちの将来を考えたまちづくり」のところで、子どもってという言葉は、学校教育と社会教育の連携のところには出ているんですけども、子どもを宝として大事にしていくという、今大事にしているから、子どもたちも学校教育のなかで地域の偉い人と話したいというようなことを言っているらしいんです。話をして自分たちの思いを受け入れてほしい、まちが暗いから蛍光灯を増やしてほしいとか、そんなことを考えているようなんですけども、今、副市長さんが言われた言葉と</p>

<p>委員</p>	<p>か、子どもは地域の宝で、何かしてあげるとい子育てではなくて、子ども自身が地域を好きになるというようなことをここに書いてほしいなとも思いました。</p> <p>副市長さんが言われていたのは、めざす市民像、めざすまちの姿、こういうところに、今言われたようなことがないよねという話ですよ。今まで大学生があまり帰ってこない、特に女性がという話ですけれども、今まで、子どもたちにはいろんな選択肢を大人側から与えてなかったことが大きな問題だと思います。「都会で仕事したらいいよ」、「別に帰ってこなくてもいいよ」と言ってきたと思います。でも、今こういう生涯学習ができてきたら、子どもたちには、たくさん選択肢があって、子どもたちも「地域のことを知る」というサイクルができると思います。そこで、子どもたちが帰って来るようにという、表現を盛り込んでもいいのかなと思います。子どもたちには、丹波市に帰ってきてほしいけれども、先ほど副市長さんが言われたように、世界で活躍する子どもたちもいてほしいし、活躍して、また帰ってきてくれる人もいてほしいけれども、市民像としては、地域に関心を持ち、地域課題に対して、地域の担い手になる、とりあえず地域のことをしっかりやってくれるという圧力を感じるんですけど、自然とそれが地域に還元されているという姿があったらいいんじゃないかなと思うんですが。</p>
<p>副市長</p>	<p>私が言ったのは、地域に帰ってきてくれということではなくて、自分の可能性を学んでどんどん大きくして、それを世界や人類のためにもっと学んでいく。ただしそれは、小さい時に、自分が人のために地域のために役立つという、必要とされていることがベースにあって、その一つは地域に役立ちたいということだし、もう少し日本のために世界や人類のために、レベルはいろいろあるんでしょうけれども、必要とされている実感を持つ学びをしていくことが重要かなと思います。一つの大きなものの中に、地域で役立ちたいという人が多ければ、それはそれに越したことはないということです。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもたちの自己有用感を高めるために、大人たちが教育・学びを提供することは非常に大事なのかなとも思っておりますし、もちろん学校教育の中ではそこを重要視されているのかなとも思います。また、私は自己有用感も大切だと思いますし、自己肯定感も必要だとも思っております。子どもたちが自分たちの力で学んで、自分たちの生きていく力を自ら伸ばしていくためには、自己肯定感を高めていく必要もあると思いますので、それぞれ子どもたちが伸びていくように、地域だったり学校だったりまちだったり、子どもたちの学びを提供していかなければならないと思っています。</p> <p>今、副市長さんが言われたんですけど、この部分には、地域側が大きいですかね、子どもたちに対して自己有用感を高められるように、子どもたちを一人の人間として見て、子どもたちの成長を見守っていきながら、学びを提供していく必要があると思っています、私の個人的な意見としては、で</p>

<p>委員</p>	<p>できれば地域の担い手になってもらえれば有難いけれども、世界に羽ばたいていてもらいたいと思います。将来のその子の可能性というものをまちや地域が削ぐのではなく、その子たちの可能性を伸ばしていけるような丹波市である必要があると思っております。そういう風に、地域だったり学校だったりまちが子どもたちを育てていけば、おそらく残る人材は残りますし、また帰って来る人もいらっしゃいますし、地域の中で大人たちが子どもたちに提供してくれているもののなかで、外から関わった人間が「この地域に住みたいな」と思う人たちって、これからどんどん出てくると思います。</p> <p>今、自己肯定感の話が出ていますので、人権の方から申し上げたいと思いますけれども、児童心理学によりますと、自己肯定感は少なくとも5歳ぐらいまでに生まれてくると書かれています。それには、自分が生まれてきて良かったという愛情いっぱいにあるのを受け入れる親を含めた大人の姿勢というのが、5歳以降の人生を決めていく、その人の子どもの性格を決めていくことになるわけですね。ですから自己有用感と自己肯定感というのは少し違うかと思いますが、地域で自分が認められていく、いわゆる自己有用感はもちろん大事なことですし、それと同時に自己肯定感の観点からいえば、LGBTという言葉で皆さんよくご存知かと思いますが、LGBTだけに留まらないXとかQとか、LGBTQというような言い方になってますけれども、この言葉が、性自認、自分の性を自分で認識する性という問題と、性的志向、誰を好きになるか、どの性を好きになるかという問題が混同した言葉なんです。その2つの問題を抱えているのですけれども、それが13人に1人、この数字がどのように出てきたかは分かりませんが、現実社会で、丹波市もそうですけれども、告白できない、カミングアウトできないということで自己肯定感の持てない世間があるんですね。ですから自己肯定感という部分を大事にすることがありますが、そういう状態を知ってただけのならば、そういうことにも関心をもって取り組んでいかなければいけない問題だと思います。テーマが離れますので、このことをこの計画の中に盛り込んでくださいという気はありませんが、LGBTの問題、性的志向の問題というのは、暮らしやすい、認知症のサポーター養成講座というのがありますね、そこに書かれてる言葉が大好きなんです。「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」。これを、認知症になってもという言葉に「社会的弱者の立場になっても」という言葉に置き換えても、同じことが言えるだろうと思います。ですから社会的弱者のなかにも、性的マイノリティのかたまりが含まれるわけで、どのような立場になっても、どのようなことになっても、安心して暮らせるまちづくりというのが大事なまちづくりの視点だと考えます。生涯学習ということとは視点がちがいますので、そういう気持ちを持って知識循環型というのを考えていきたいと思っています。</p> <p>委員長 一度は育ったまちを出た時に「出身どこ？」って聞かれたときに、胸張っ</p>
-----------	--

<p>委員</p>	<p>て「丹波です」と言えるようなものを、丹波で生まれて育っていく間で感じてほしいですね。丹波を自慢にして外に出ている人は、どんどん外に出て行って丹波を自慢してもらったら、丹波にとっていろいろいいことが起きますから、そういう人がうまく丹波の自慢を子どもたちにきちんと実感できるようになったらと思います。</p> <p>目指す市民像で、一番上に事務局案があって、意見があって、素案になっていますが、これも個人的な思いですけど、他者と協働しながらというのが、入れてほしいなと思うんですけどいかがでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>そうですね、協働というのはキーワードですね。</p>
<p>副委員長</p>	<p>目指す市民像というのは、地域に関心を持ち、地域の課題解決に向けての市民像というイメージがあるのですけれども、先ほど委員さんが言われたこと考えると、別紙の意見用紙の4番に、社会的包摂の考え方というのがあるんです。この社会的包摂という言葉で、市民一人が大事にされる市民像も入れ込まないと、市民像が地域課題解決のための市民像だけを求めているような、行政的な立場で判断はされるような気がしますので、そこに、自立した個人だとか、主体的に動ける個人であるとか、逆に、地域社会が社会的弱者に対して温かく育むような社会というような、社会的包摂という言葉ももしそこに盛り込むような、目指す市民像のところに入れていけば、もう少し大きな市民像ができてくるのではないかと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>多様性を認め合いながら、しかも協働していける、いろんな人がいて、そこでつながっていくという人たちというのが。非常に温もりを感じる言葉。実は多様性というのは力ですからね。多様だから新しいものが生まれてくる。多様性を認め合い、それがつながっていく。他にこういうキーワードを入れたいらというのはいないですか？</p> <p>この目指す市民像に、地域課題というのを入れ込んでいいのか。初めから課題解決のために動いてくださいよみたいに感じますよね。</p>
<p>課長</p>	<p>事務局案で出しておきながら申し訳ございません。皆さんのお話を聴かせてもらって、まとめるとどうなるか考えていたところです。この目指す市民像のなかには、「シビックプライド」の意味合いが非常に大きいと私は思っておりまして、例えばですけども、「地域に愛着と誇りを持って、人と人との交わりを喜びにしながら、丹波市をより良いまちにするために、当事者意識をもって活動する人」みたいな、そういうイメージのことを皆さん言われているのかなと受け止めたところです。温かい地域と言いますか、どこにいても丹波市のことを思い地域のことを考えながら、自分の将来のことも考える、そんなイメージのことを皆さん言われてると思ったので、今あげ</p>

	<p>ています文章については少し見直し今申し挙げましたような表現的なことを使わせていただくとどうかとお尋ねしたいと思います。</p>
委員長	<p>他よろしいですか？</p>
委員	<p>「共に生きる」という言葉がないですね。地域課題は、何が地域課題かと会の中ではあまり取り上げてこなかったが、人間関係が希薄化しているということは、追記していただいたらと感じます。そういう意味で申しますと共生「共に生きる」という文言が何処かにあればいいのかなと思ったりしています。</p>
委員	<p>めざす市民像のところ言葉等、踏まえられて少しやんわりしたといえますか、温かみが出たということで見ると「めざすまちの姿」は主体的に学んでいく。途切れてる感じがするので、学んでいる方も組織で応援しますよ、何とかしますよという様なやんわりした言葉で言い替えればまとまるのではないかという気がします。</p> <p>学びを応援して支える… 「めざすまち」だから学んでいる人がいて、それを応援して支えるまちがある。ということをもっといい言葉でというか、まち的にも応援して素晴らしいまちをめざしているというフレーズがあれば分かりやすいと、この文章では、誰か知らないけど学んでいるみたいな形になっているので何かあれば分かりやすいと思いました。</p>
委員長	<p>主体的な学びを支えてくれるまちである。学んで終りではなく、何かしようとしている人を応援する風土、仕組みがある。</p>
委員	<p>めざすまちの姿で少し私は理解できていない文言がありまして、「人口減少時代においても地域が活力を維持しさらに発展していけるよう」というのはどういうものを指しているのかなと思っています。人口減少時代でまちが、まちとしては日本全体が経済も含めて衰退していく方向に向かっていく中で、地域が活力を維持しながら更に発展していけるよというものはどういうものを指しているのかなと思いました。そこを教えてください。</p>
委員長	<p>まちとして発展。めざすまちの姿が発展ですよ。発展とは目指すということですね…。どこへ向かって発展していくのか、どこを目指しているのか確かにね。意図は？</p>
事務局	<p>私自身、言葉の中でぐるぐる回っていて、改めて委員さんから言われると「さて、発展って…？」事務局が言うのもいかなものなのですが、人口減少時代といっても皆が支えあって同じように手を取り合って、役割をそれぞれ考えて維持していくというのが大前提です。欲張って更に発展してい</p>

	<p>けるようにというのは、計画ですので曖昧なところもあっていいのかなと書いている、具体的に人口増にしましょうとか、一人ひとりの意識の割合を高めましょうとかそういうところをイメージした訳ではないのです。抽象的に描いて、具体的に言われると詰まってしまうのが正直なところ。確かに言われてその通りだと思います。</p>
委員長	<p>ただその枕詞に人口減少を先に置いているからね。だから発展でも入れておかないとどんどん人口が減っていても大丈夫ですよ…みたいなになりますので。</p>
課長	<p>高齢者が増えた社会で地域が衰える訳ではない。みんなに役割があつてということでもありますので、人口減少社会においても地域の活力を維持しながら元気で活躍される方はまだ引き続きおられる、そういうイメージを持っているところが、少し表現が違います事務所の想いがあります。</p>
委員長	<p>一番いいのは、人口が減少しないのがいいですね。だから人口減少時代においても活力があつて人口がこれからもどんどん増えていく、発展していくといい訳ですね。でも人口が減っていくのは仕方がなく、その中で何とか皆でやりましょうは、少し消極的な感じがしますよね。</p>
委員	<p>目指す市民像と目指すまちの姿を市民、住民がすんなり受け入れて、組織によって活躍しているというのがあり方というか、そういうものなんだろうなと勝手に思っているのですが、発展をみんなが共有できてその中で丹波市の人の精神の中に入れていけるといいなと思いますし、そういう皆さんのまちづくりでまちが成り立っていくのが理想だと思います。</p>
副委員長	<p>私はもっと単純に考えていました。まちの姿の主体は「まち」なんですから、先ほど委員さんが仰っていましたが、主体的に学んでいく人を支えるまちとか最後に「まち」を付けると主体性が浮き出てきますので、更に発展していくとは経済的にも、文化的にも発展していく。人材が育ったところに文化ができるといったように私は捉えましたので、単純にまちが発展していくと考えていました。ただ、「主体的に学んでいる」で切ってしまうのははっきりしないので、「まなんている人を支えるまち」であるとか、最後にまちを付けるとはっきりしてくるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>そうしたらさびれているところが発展するかなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他に何かこの際ですからお気づきの点がありますか。また、この後のステップについては事務局から説明させていただきます</p>

	<p>が冒頭にも申し上げましたように、今回のご意見も含めて暫定的な素案として、パブリックコメントに出す。多くの市民の方にも見ていただいて意見をいただくという格好になっていきます。そういう視点から全体として何か意見ありますか？</p> <p>それでは、私の方から一点。事務局との打合せでこの資料の12ページのアンケートの「⑧あなたは、今後、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かしたいと思いませんか。」について、生かしたいと思う人の大きく割合が下がっているのは何だろうか。生涯学習を前向きに捉えている方は増えているのですが、学んだことを生かしたいですかの問いに対して市民の受け取り方が変わってきている。学んだことは自分のものであって、人のために生かすのは面倒くさいと思っているのか、何か違う要素があるのか。一つは圧倒的にパーセンテージが違うのは、不明・無回答ですね。この問いに対して回答者が悩まれたのですね。このあたり、「生涯学習を仕事や地域活動に生かす」とはどういうことなんだろう、丹波市のために或いは地元のために…学びを還元するとはどういうことなんだろう。社会の変化もありどのように考えていけばいいか。</p>
委員	<p>その下の⑨で…仕事や市域活動に生かしたいと思わない理由は何ですか。というところで・仕事が忙しくて時間がないがどんどん増えてます。他にも人間関係が煩わしいとかが少しでも増えていますので、こういうところかなと思います。</p>
委員	<p>統計上、何パーセントぐらいは、変化と見なさないのでしょうか。</p>
委員長	<p>有意差があるかどうかは統計的な処理の仕方はあるのでしょうかけれど、しかし明らかに少ない気がします。世の中が変わってきたところがあるかも知れない。</p> <p>アンケートの結果も含めてマスコミに提供されるということになります。我々も皆さんに集まっていただき、有意義な議論ができたと思うのですが、市民の方々からもっと広い目で見えていただき、いろんな意見が出てくると思います。それも取り入れながら最終的に仕上げていきたいと思います。</p>
事務局	<p>それでは、今後のパブリックコメントも含めた今後の予定を事務局からお願いします。</p> <p><b>6. パブリックコメント（意見募集）の実施について</b>  募集期間（予定）  令和元年12月24日（火）～令和2年1月24日（金）まで</p>

	<p><b>7. 策定までのスケジュールについて</b></p> <p>(1) 第4回審議会 11月25日(月)</p> <p>(2) 正副委員長協議 12月2日(月)</p> <p>(3) 総務文教常任委員会説明 12月17日(火)</p> <p>(4) パブリックコメント実施 12月24日(火)～1月24日(金)</p> <p>(5) 素案修正 1月31日(金)迄</p> <p>(6) 第5回審議会 2月上旬</p> <p>(7) 答申 2月中旬</p> <p>(8) 総務文教常任委員会報告 3月上旬</p> <p>(9) 後期計画策定 4月</p>
委員長	<p>ありがとうございました。皆さんから頂いた意見、正副委員長と事務局で整理させていただいて、それを最終的な資料として取り上げようと思いますので、お任せいただきますようよろしくお願いします。次回、パブリックコメントが出て、素案修正をしてからもう一度ここで、皆さんにパブリックコメントでこんな意見が出て、それに基づきこんな回答をして、こんな意見については納得いただいて、この意見を入れて変わりました。と、もう一度この委員会に諮る。という格好でいきたいと思います。その様な形で仕上げていきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p><b>8. 閉会</b></p> <p>○閉会あいさつ</p>
副委員長	<p>閉会の挨拶の前に少しお話を。先般、市民プラザに「水戸黄門」ではないですが、素知らぬ顔をして訪問させていただきました。来られていた1人の市民の方から「グループを作って活動したいがその方法について教えてほしい」という相談の業務をされていました。早速機能しているなど感心しました。できた施設が機能していくということは嬉しいことで、私も少し関わったので良かったなど感心して帰って着ました。</p> <p>皆様方におかれましては、委員長の冒頭の挨拶にもありましたが、パブリックコメントに向けた最後の意見調整会議と言うことで、今日は大変有意義な審議ができたと思います。いよいよ大詰めと言うところで今後皆様方、委員さんから意見を賜ることも多々あるかと思しますので、最後までよろしくお願いします。これをもちまして丹波市生涯学習基本計画審議会を閉じます。本日は長時間ありがとうございました。</p>